

カモシカ食害防除ボランティア

かもしかの会関西

代表 高柳 敦

京都府

本活動は、野生動物との共存のためには被害防除が不可欠であるとの認識から、滋賀県甲賀郡土山町をフィールドとし、スギ、ヒノキなどの造林木をカモシカやシカによる食害から守るために、都市住民が現場に行き、食害防除ボランティアとして農山村住民に協力することで、共存への道筋を探るものである。

今回の助成金は、年4回行っている食害防除ボランティア作業のうち、2002年夏と秋、2003年春の3回の作業と10月にスタッフで行ったカモシカ生息調査の活動資金並びに活動に必要な資材の購入、および機関誌として発行している「かもしか通信関西版」が100号を迎え、特集号を組んだので、その作成及び発送費用に充てた。以下に、各活動についてまとめておく。

1. 夏の作業（「かもしか通信関西版」NO.99

2, 3ページ参照）

8月22日から25日までの3泊4日で行った。参加者を事前に公募したが、総参加者数は13名と極めて少なかった。公募は例年と同じように行っていたので、参加者数が少なかった理由は不明である。

作業内容は、土山町内でかもしかの会がポリネットを掛けている青土、大河原、坂尻の3つの造林地で食害防除用のポリネットを造林木に掛ける作業および一部の造林地における下刈り作業である。

22日は青土での作業となった。ここではポリネットがかなり効果を上げており、成長の遅い斜面上部の造林木にポリネットを掛け、造林地全域の

下刈りをほぼ終了して作業を終えた。高齢者の方もいらっしやしたが、気温もそれほど高くなりならず、皆同じように作業をすることができた。

23日は坂尻でポリネットを掛ける作業を行った。この造林地は、防護柵が設置されて植栽されて10年近くになるが、防護柵が破られてカモシカやシカが侵入して被害を引き起こしているため、未だに造林木が育っていない。それをポリネットで防除しようと、昨年の春から試みている。ポリネットを引きちぎられるなどで、被害を止めることができていない。今回の作業でも、二重にして掛けたポリネットまでちぎられているなど、なかなか完璧な防除ができていない。同時に設置したラクトロン幼齡木セットでは今のところ被害は見られなかった。

坂尻での作業の後、地元で林業を営まれている安井氏といっしょにポリネット防除作業を行った。地元の人が主体的に行う防除作業をかもしかの会が手伝うというのは、1979年にかもしかの会が土山町で活動を開始してからの理想である活動形態の一つであるが、今回初めて実現することができた。一方で、地元の活動を支える形で進めてきた一つの造林地が、開発のため造林地ごとなくなってしまった。小さな造林地ではあったが、着実に成果も見えていただけにとっても残念であると同時に、山村における自然資源の位置づけについて考えさせられることとなった。

24日は、大河原というもっとも奥地にある造林地で作業を行った。ここでも成長の良い斜面中断より下側では防除効果があって成長しているものの、斜面上部では成長が悪く、かつポリネットを

引きちぎられるなどの問題が発生して効果が出ていない。

この後、昨日の坂尻の作業地の隣にあるとても小さな造林地へ向かった。我々が作業のために中にはいると、中にカモシカがいた。この造林地は柵で囲まれているにもかかわらず、それを越えて侵入していたのだが、我々が来てパニックになったのか、なかなか出ることができず、柵にぶつかりだしたので、体を傷つけないように、入り口を開けてそこから逃がした。参加者と共にカモシカを間近で見ることができたとともに、防護柵の問題点や被害問題の深刻さを知ることになった。

最終日には、7名で午前中は、外来雑草に苦しめられながら下刈りをし、午後には川遊びを行った。最終日だけ暑くなり、皆で川で楽しく泳ぐことができた。

2. 秋の調査（「かもしか通信関西版」NO.99

8, 9ページ参照）

10月12, 13日にカモシカ生息調査を行った。

この活動は参加者を公募せず、スタッフ及び通信購読者からの参加者で行った。参加者は7名で、昨年3月の春の調査で聞き取りを行った山女原と黒滝の集落周辺及びカモシカを目撃した坂尻周辺でカモシカの痕跡を探す踏査を行った。踏査場所はアンケートで目撃記録があったところで行ったが、結局カモシカを目撃することもその痕跡を発見することもできなかった。地元ではカモシカが山にいずれに里にいるようになったとの情報をしばしば耳にするが、今回の調査ではそれを裏付けることはできなかった。ただ、調査で歩いた範囲は、広く人工林化が進められており、それらの戦後人工林では手入れ不足から、林床が真っ暗となり、餌となるような植物が全く見あたらない森林がかなり広い範囲に広がっていることがわかった。つまり、人間には森林に見えても、カモシカやシカ

にとっては餌のない森ばかりであり、下草が豊富な造林地はとても重要な餌場となっている可能性が高い。そのため、たとえ小さな造林地を柵で囲っても、餌を食べるためにカモシカやシカはその中に入ろうと必死になると考えられた。食害問題を解決するには、このような自然環境を改善することも極めて重要であることが確認できたのは大きな成果である。今後は、このような林相の改善も会の活動として目指すことを検討することになった。

3. 秋の作業（「かもしか通信関西版」NO.100

1～6ページ参照）

11月21日から24日までの3泊4日で行った。

今回は総参加者38名と多かった。これは専門学校の学生達が沢山参加したためである。作業内容は、例年通りの防護柵作りの他、今回は、地元小学生に植栽を教える企画が盛り込まれた。これは、地元の人材バンクである「あいの土っ子きらねっ人」の活動の一環として、土曜日に小学生に何かを教える企画として行われたものである。以前にも、自然教室を行って小学生に自然との接し方などを教えたことはあるが、地元の小学生は初めてであり、かもしかの会関西としても画期的な企画である。

21, 22日は、例年通りの防護柵作りであった。今年から柵の規格が変わり90cmの金網を2段に張ることになったため、いつもと手順が違い、初日はだいぶもたついた。しかし、2日目にはだいぶ慣れてきて、いつも通りに近いペースで作業を進めることができた。そして22日の夕方前には200mを越す柵を完成させた。

23日は小学生に植栽を教える作業を行った。参加者はかもしかの会関西の34名の他、小学生15名と保護者や小学校の先生約10名、それに森林組合の方やいつもいろいろとお世話になっている地元の農林業家の鍋家氏も来られ、総50名を越える活

動となった。小学生は、ほとんどの子が初めて植栽をするため、植栽の仕方をまず教えた。それから小学生一人一人にスタッフや参加者がついて、手取り足取り教えながら植栽した。特に専門学校の若い参加者が熱心に教えてくれて、良いお兄さんお姉さんになってくれた。昼までにヒノキ300本の植栽を終えた。午後にはケヤキ50本の植栽を植栽した後、ヒノキにはポリネットをかぶせ、ケヤキはラクトロンネットで囲んで防除を行った。防除作業は、小学生にとってはもちろん初めてであったが、ポリネットは簡単な作業であるので、すぐにやり方を覚えてもらうことができた。ラクトロンネットは、少し手間取っているようであったが、無事に終了することができた。それらの作業が終わった後、近くのスギ・ヒノキ人工林と雑木林とを歩いた。そこで、林床の植物の違い、明るさの違いなどの森林の様子の違いについて、鍋家氏などから説明をしてもらった。小学生達には好評であったようであり、参加者の満足度も高く、大変よい企画となった。その準備などが大変であるため、毎年実施することはできそうもないが、数年ごとに企画して、地元の子供達にも、自然や野生動物とのつき合い方について学んでもらう機会を増やしてゆきたい。

4. 春の作業（「かもしか通信関西版」NO.101

1～4ページ参照）

2003年3月20日から23日までの3泊4日で行った。今回はまた参加者が少なく、20名にも満たなかったが、秋の植栽をきっかけに植えることに興味を持った参加者もいて、活気ある作業となった。

作業地は秋の作業と同じ造林地で、秋に植栽した続きにヒノキを1000本植栽した。初めて植栽する参加者の割合が例年に比べて高く、また、傾斜も比較的きつい林地であったが、石が少なく植えやすい土だったこともあって、作業はスムーズに進行して3日目には植栽は終了した。初めて本

格的に植栽を体験した参加者からは、植栽の大変さがわかると同時に被害に遭う人が怒る気持ちも分かるという意見も聞かれ、活動の趣旨を理解してもらうことができた。

また、22日には安井氏の林地へいったが、昨夏にポリネットを掛けたあたりがイノシシに掘り返されていたり、ポリネットから出ている部分が食べられていたりした。イノシシの被害も大きそうだったので、その場で回りの檻を見回り、4箇所ほどの侵入カ所を侵入できないように塞いだ。この作業も安井氏とともに行うことができ、地元の方と共に行う作業となった。また、その造林地に隣接して林床の暗くなった若齢林があり、それが安井氏の所有であることが分かり、除間伐作業をいっしょにさせてもらえるようお願いすることができた。

今回は、時間的な余裕があり3日目と最終日にカモシカの観察に出かけたが、両日とも2回、カモシカを観察することができ、参加者は大変喜んでいた。しかし、いずれも道路の法面の粹工法の粹の中で、おそらく粹が断崖のような地形となり、かつ粹内に餌となる草が豊富に生えているので、カモシカにとって良い餌場となっていると考えられた。しかし、山では以前としてあまり観察されておらず、この状況をどう判断すべきかは今後調べてゆかなければならない。

最終日には10年ほど行ったことがなかったかつての作業地へ行く林道を奥へ入ったが、治山ダムが小渓流の奥まで作られており、それにもなって上流まで急な作業道が付けられていた。かつて汗を流して歩いて登ったところを車で上れるのは便利だが、きれいな渓流が全く姿を消してしまっていることは残念である。その奥にまだ残されている渓流でお昼を取ったが、参加者はその美しい渓流を堪能すると共に、開発される便利さと美しい自然が失われる残念さについて考えてもらうきっかけとなった。

5. 「かもしか通信関西版」100号記念特集号（「かもしか通信関西版」NO.100参照）

機関誌として発行している「かもしか通信関西版」が100号を迎えたので、それを記念して、特集号を発行した。かもしかの会関西が提唱し始めた野生動物文化について、これまで断片的な提言ばかりであり、その内容を深めることができなかったため、99号でその定義について提案（NO.99, 12～15ページ）し、それを起点にして、スタッフそれぞれが自らの考える野生動物文化について述べた。また、2月の総会ではそれらの意見を踏まえ、野生動物文化とは何か、どう考えるべきかなどについて話し合ったので、その内容も掲載した。それらをまとめて、野生動物文化論について再度検討を加えている。これらの検討の中で、野生動物との共存における人間と野生動物との関係について新しい視点を示すことができた。

6. おわりに

2002年度はかもしかの会関西にとって、ターニングポイントとなるような活動が多かった。その活動の実施に当たっては「タカラハーモニスタッフ」が極めて役に立ちました。改めてお礼申し上げます。



2002年秋の作業での地元小学生達との記念写真



2003年春の作業で観察されたカモシカ

かもしか通信

関西版 NO. 98



【既報の要約】

5月の作業。きよしの林地は激変していた。砂防ダムができ、採取作業用の道路が作られていた。詳細は加っていたが、こんなに変わるものかと。山は切り取られ、崩れていく。サワガニのいた流れは地中に。防護柵も切り取られていた。

梅雨に突入。毎日じめじめです。来るべく夏の計画を立てましょう。やっぱり土山で心地よく汗を流し是非お会いしましょう

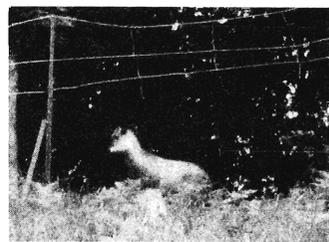
| 目次 | |
|----------------------|---------------------------------------|
| ▲2002年度の活動について | 高柳 敦 2 |
| ▲春の作業報告 | 角野正博 3-4 |
| ▲春の作業初参加感想/会計報告 | 岩田実利江・藤山幸男 5-6 |
| ▲野生動物の被害問題③ | 環境収容力(Carrying Capacity) 高柳 敦 7 |
| ▲4月の聞き取り報告/土山初夏の作業報告 | 高柳 敦 8-9 |
| ▲8月の作業案内 | 高柳 敦 10 |
| ▲キバナ山行 | 高柳 敦 11 |
| ▲ふらりまきまーに旅日記⑤ | 林田孝生 12-13 |
| ▲ヒトと野生動物の共存に向けて⑥ | シンドラーのリヌトが伝えたもの-組織と個人と人間愛- 村本寿明 14-15 |

2002.6.29発行

かもしかの会関西

かもしか通信

関西版 NO. 99



【既報の要約】

作業3日目。急勾配の狭い林地内でのことでした。防護柵内に一頭のカモシカ。私達に驚いてパニック状態に。久しぶりのカモシカとの遭遇でしたが、驚愕な思いが湧きました。どうやって柵内にはいったのか不明。

11月の作業は内一日土山町の子供達と植林作業を行います。一緒に作業をして地元の子供達に山を知ってもらいましょう

| 目次 | |
|-----------------------|--------------------|
| ▲2002年8月上旬夏の作業報告/会計報告 | 高柳 敦 2-3 |
| ▲夏の作業初参加感想 | 高柳 敦 4 |
| ▲夏のアルバム | 高柳 敦 5 |
| ▲11月の作業案内 | 高柳 敦 6 |
| ▲鳥国の自然保護④ | 「キツネ狩り(中編)」 佐伯 謙 7 |
| ▲秋の調査速報 | 高柳 敦 8-9 |
| ▲ひとのお山拝見記 | 高柳 敦 10-11 |
| ▲野生動物文化誌 | 高柳 敦 12-15 |

2002.10.29発行

かもしかの会関西

2003. 2. 26

NO.100

かもしか通信

関西版100号記念特集号



もくじ

| | |
|--------------------------|-------|
| 2002年11月秋の作業報告...得能見晴 | 1-2 |
| 作業参加した子供達の感想紙 | 3-4 |
| 作業参加感想/会社報告...金井鶴野/斉藤文英 | 5 |
| 11月秋の作業/オオまごめ...西村知記 | 6 |
| 2003年總會報告...西村知記 | 7-9 |
| 3月作業案内 | 10 |
| 深い山いんげん報告/記事...高柳 敦 | 11-12 |
| 5月作業案内 | 13 |
| 100号記念特集 「野生動物文化を考える」 | 14-34 |

かもしかの会関西

この特集号は

宝ホールディングス株式会社の
TaKaRaハーモニストファンド
平成14年度助成金で作成されました。

2003. 4. 28

NO.101

かもしか通信

関西版



もくじ

| | | |
|-----------------|------|------|
| 2003 春の作業報告 | 西村知記 | 1-3 |
| 作業参加感想/会社報告 | 川原早苗 | 4 |
| 作業アンケート集計結果 | 西村知記 | 5 |
| 初夏の作業案内 | | 6 |
| 週末百華 蘭園日記 | | 7 |
| 上山町の有馬温泉旅館への訪問 | 高柳 敦 | 8 |
| 島国の自然保護誌 | 佐伯 緑 | 9-11 |
| 野生動物文化とかもしかの会関西 | 高柳 敦 | 12 |
| 新聞記事 | | 13 |
| インターネット記事 | | 14 |

かもしかの会関西